

001 健

No.	読書日 2010年	タイトル	著者 出版	表紙	コメント	評価
1	0828- 0901	学生街の殺人	東野圭吾 講談社文庫 750円 (古200円)		主人公は卒業後就職せず寂れた学生街にあるビリヤード場に勤務するフリーター。ある日恋人が殺害され恋人の事を何も知らない自分に気付いた主人公は自分なりに恋人の過去をたどるうちに事件の全貌が明らかになってゆく。被害者の気持ちを知ったときの主人公の心境の変化・苦悩など切ない読後感の残る作品。	
2	0903- 0907	殺人の門	東野圭吾 講談社文庫 780円 (古200円)		恵まれた家庭に育った主人公が不幸へと傾いてゆく過程。その裏に友人の顔をしていつも煮え湯を飲ます男。騙されたことを知って憎悪するにも殺害までは出来ない奇妙な関係。主人公はある日ひょんなことから毒薬を入手し殺人の手段を得た事が返って抑止になっている。よくある悪徳商法の類に騙され過ぎの馬鹿さかげんにイライラする。	
3	0908- 0911	鳥人計画	東野圭吾 新潮文庫 580円 (古175円)		中2の時、札幌五輪で日の丸飛行隊の金銀銅独占の実況中継を見て以来スキージャンプのファンになった著者が札幌で開催されたワールドカップを綿密に取材して書いたもの。競技選手の心理が引き起こした殺人劇に加えジャンプの飛行運動を科学的な視点で解析しているので興味深く読める。	
4	0912- 0913	総特集 萩尾望都	河出書房新社 KAWADE 夢ムック 1,200円		萩尾望都はデビューまもない頃からSFを描いてきた数少ない女性漫画家。実は作品はほとんど読んでいないがSF作品の漫画化や装丁なども手掛けていて絵には惹かれている。今更ながらデビュー当時の作品、生い立ち、家族のこと、作品、作風など特集しているというので購入。	
5	0913- 0916	天地明察	うぶかたとう 沖方丁 角川グループ パブリッシング・ 1,890円		碁の名門に生まれた渋川春海が改暦に挑む生涯を、人間模様を通して描いたもの。和算の関孝和、碁の大天才道策も登場して楽しめる。改暦の重大さ・影響は当初ピンと来なかったが社会のあらゆるところに関りのある一大事業と実感。測量・天文・数学と持てる技術を駆使するも挫折を味わい最後には成し遂げる爽快感が良い。	

6	0917-0918	球体の蛇	道尾秀介 角川書店・ 1,680 円		幼なじみの死の真相について秘密を抱える主人公はある女性に夢中になり狡い嘘と幼い偽善であやまちを犯す。登場人物が起こした事件、垣間目撃した事件の一部をそれぞれ誤解し秘密として抱えて暮らしている。それ等の事件の全容が結びつく毎に悔恨と懺悔の後味の悪い読後感が待っている。
7	0919-0923	きみはポラリス	三浦しおん 新潮社 1,680 円		エッセイなどを読むと性についてもあつけらかんとアケスケな発言をする著者。恋愛をテーマにと依頼されて書かれた恋愛短編集。巻末に「自分お題」として11の作品に書くときに設定した恋愛のテーマを紹介している。ありえない話から共感できるものまでとにかく一風変わった恋愛話で自分にはついていけない。
8	0924-0927	黒笑小説	東野圭吾 集英社文庫 580 円 (古175円)		題名のとおりにブラック・ユーモアを集めた13の短編集。主に文壇の作家や編集者のからみに少々の毒を利かせた作品が多い。他にはかつてのSFショートショートを膨らませたような作品も。特にお勧めしないが暇ならばといった肩の凝らない作品集。
9	0928-1001	たまゆらり	高橋克彦 実業之日本社 1,575 円		かつての記憶シリーズなどと比べてゾクとするところが不足気味なので満足できない。高橋作品を読むものならすぐわかる著者自身と思える作家が体験する日常が異界に転じる恐怖を描いた11編。文章がほとんどセリフで埋まっているのも状況が分かりやすいけども小説としてはどうなの？と思う。
10	1002-1003	御乱心	三遊亭円丈 主婦の友社 980 円		1978年、三遊亭円生が引き起こした落語協会分裂の顛末を渦中にいた弟子の三遊亭円丈が書いた小説仕立ての暴露本。亡くなった五代目円楽がかなりの悪役になっているが当の円楽は「真実」と言い切ってしまう暴露本の反応としては肩透かしとなった。この本は組織が肥大したときに起こる人物ウォッチとしても面白く読める。

11	1004-1006	百万のマルコ	柳広司 創元推理文庫 720 円 (古 200 円)		「百万」にはイタリアではほら吹きの意味を持つ。囚人たちが退屈を持って余すジェノバの牢。ボロをまとった新入りの囚人マルコポーロがフビライ・ハーンに仕えていた時に降りかかった難題を見事に解決した話を語り始めるがいつも肝心の解決した部分を話さず褒美を得た話で終わる。囚人たちはあれこれ推理するがわからずマルコが最後に種を明かすパターンの短編集。「頭の体操」的パズルといった感じのネタ多し。	
12	1007-1009	卒業 -雪月花 殺人ゲーム-	東野圭吾 講談社文庫 620 円 (古 350 円)		「ガリレオ」シリーズを除けば東野作品では数少ないキャラ立ちしている刑事、加賀恭一郎が初めて登場する作品ということで読む。加賀が大学4年の時、アパートの自室で友人の祥子が殺される。学生生活最後の時期の描写が良く友人たちの中に被害者と加害者が混在する人間関係に悩む青春ミステリー。ガリレオ的トリックもある。	
13	1010-1011	放課後	東野圭吾 講談社文庫 600 円 (350 円)		放課後の女子校内の更衣室で生徒指導の教師が青酸中毒で死んでいた。状況が密室だったため自殺か他殺か取沙汰される。怪しい人物が次々浮かび発見者であるアーチェリー部の顧問と頭脳明晰な美少女が真相を追究するうちに第2の殺人が起こる。話は複雑に入り組んでいるが動機は単純にしてショッキングな結末。	
14	1012-1012	文明怪化	高橋克彦 集英社文庫 630 円		広目屋・完四郎シリーズ第4弾。江戸の広告代理店「広目屋」で探偵役をしていた完四郎が維新後の世界を舞台に奇妙な事件の裏に有る物を洞察して謎解きをする12作の短編集。実在の人物・当時の風習など巧に取り入れ急変した社会の歪みなどを浮き彫りにして面白。	
15	1013-1015	骨董屋征次郎 手控	火坂雅志 講談社文庫 860 円 (古 450 円)		「骨董品」というと曰く因縁、欲望、贋作など胡散臭さがつきものの中に名品が出てくるとワクワクする感じがするの否めない。主人公の征次郎も骨董品店を構える裏で闇の骨董品を扱う結社の一員。武士を捨てたいきさつ、贋作師との対決を描いた連作もの。	

16	1016-1017	白銀ジャック	東野圭吾 実業之日本社 文庫 680 円		年の瀬のシーズンを迎えたスキー場のゲレンデに爆弾を仕掛けたとの脅迫状が届く。人質は何も知らずにスキーを楽しむスキー客。営利を確保したいスキー場の経営陣と現場責任者たちとの確執。金目当てか復讐か。犯人との駆け引き。テンポのよいストーリーとスキー・スノーボーの動きが見える描写。ミステリーとはいえないが結構引きずり込まれる作品。難点をいえば経営陣の取った手段が少々現実的ではないところか。	
17	1018-1020	海の翼	秋月達郎 新人物文庫 750 円		1890 年親善使節として来日したトルコの軍艦が帰国時に台風に遭い紀州沖で沈没。事故に際し島民が行った献身的救助、全国的な募金運動、被災者を送る軍艦の派遣がトルコ国民に感銘を与える。その百年あまり過ぎた 1995 年イラン・イラク戦争の際、救援機を出せない日本の代りに昔の恩に報いるためトルコが救援機を出してくれるという美談。語り継ぐのは戦争などの負ばかりではいけないと思った。	
18	1022-1023	書店繁盛記	田口久美子 ポプラ文庫 630 円		いくつかの大型書店勤務を経験してきた著者が綴る書店の現況、問題、日々起こる身近な事件の顛末記。アマゾンやブックオフ、電子書籍の出現に書店が受ける脅威、話題の本についても書店員の視点から書かれていて面白い。反面、販売員としての考えが見えることもあり本好きの購入者としては納得できない対応が書かれている部分もある。	
19	1024-1031	パルテノン	柳広司 実業之日本社 文庫 720 円		ペルシア戦争に勝利したアテナイが都市国家（ポリス）の未来を祈願して究極の神殿パルテノンを建てる経緯と建造後にもたらされた国家の運命について書かれた作品。史実に基づきながら創作を交え当時のギリシアにおける国家の正義、個人の良心をテーマに史劇風に描き、生きた歴史を見るような思いのする作品。	